

静岡大会を終えて

6月4日にオンラインで開催した第72回国立国公立幼稚園・こども園長会 総会・研究大会静岡大会（午後の部）は、常時、500名余の方々にご視聴いただきました。大会当日、ご講話で貴重なご示唆をくださった文部科学省初等中等教育局幼児教育課の大杉課長様、日々の実践を基に貴重な提言を発表してくださった3名の園長先生方、具体的な指導講評をいただいた国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部の小久保教育課程調査官様に、改めて心より感謝申し上げます。

大会終了後のアンケートには311件の回答をいただき、コロナ禍でもオンラインで大会を開催できたことに、全員から「よかった」という回答をいただきました。遠方からでも参加できたこと、画面越しでしたが全国に支え合える仲間がいることを感じながら学べたことが好評でした。中には、教育委員会に出向き地域の園長先生方と一緒に参加し、大会終了後に各園の保育や運営について話し合った方もいらしたようです。運営の都合上、協議はできませんでしたが、違う形で学びを深める工夫ができるころに、会員の皆様の熱意を感じました。時間の配分や休憩の取り方には具体的な提案もお寄せいただきました。今後、オンラインでの会議や研修会の企画に反映できればと思います。

国公立の園長が全国に切磋琢磨する仲間をもって常に学び続けていること、そして、各区市町村・各都道府県・全国で園長同士が横のつながりを持ち、定期的に情報交換や意見交換をしてきたことは、私たち会員一人一人が園長としての自覚を高め、各園の経営祖支える力を向上させるとともに、地域の幼児教育の質を支えることにも大いに貢献してきたと言えます。「不易と流行」という言葉がありますが、七十二年の歴史をもつ国公幼の活動は、これからも「幼児期の教育の振興と発展」を推し進めていく上で、欠かすことのできない、「不易」である、と考えます。

現在、少子化や無償化の影響で園児数や園数の減少が続いておりますが、地域に子供がいるかぎり、国立・公立の園が公の教育機関として、地域の幼児期の教育の質の維持・向上を牽引することは、これからも変わらずに果たしていくべき役割です。難しい問題が立ちはだかることがあっても、会員同士で知恵を出し合えば道を切り拓くことが必ずできます。これからも志を高くもち、国公立の園長としての役割を果たしてまいりましょう。

静岡大会がコロナ禍においても開催できたことは、国公幼がこれからも、どのような状況においても、よりよい教育を実現するために歩みを前に進めていく、という証となりました。来年度こそは総会・研究大会を対面で開催できることを心より願いつつ、このバトンを、次期開催県の奈良県に引き継ぎ、これからも会員の皆様の思いを一つに、歩み続けてまいりましょう。

来る7月30日には、第68回国立国公立幼稚園・こども園教育研究協議会岡山大会をオンラインで開催いたします。この協議会は、国公立の教員だけではなく、幼児教育に携わっている方や幼児教育を勉強中の方まで広く申し込んでいただけます。静岡大会の指導助言の中で小久保先生がお話しされた「研修や研究の拠点となることが国公立の役割」ということを、まさに体現している大会です。

夏のひととき、国公立から学びの輪を広げ、学び合い、高め合う機会となれば幸いです。

全国国公立幼稚園・こども園長会
会長 箕輪 恵美